

行きたいところが かかりつけ医

あなたの



最近触れる機会が多い「かかりつけ医」という言葉。「自分のかかりつけ医はどこだろう?」と腕組みしてしまう人もいるかもしれません。今回は「かかりつけ医」をテーマに、かかりつけ医の役割や探し方、子どもの予防接種という点から、それぞれお話しをお伺いしました。

編集部(以下、編)：“あなたの行きたいところが「かかりつけ医」とはかなりインパクトのあるメッセージですよね!?”

渋谷先生(以下、先生)：“そうですよね。そう思われるかもしれません、これが「かかりつけ医」の理想像だと思っています。そして、重要なのは「行きたいときに気軽に自分で何でも相談できる」という点だと思います。

編：“具合が悪いけれど、何科に行つたらいいかわからない……。というとき、「かかりつけ医」を持ついないと、つい大きな病院に行つてしまいがちです。

先生：“海外では「かかりつけ医」からの紹介状がないと大病院には行けない国が多いです。けれども、日本では基本的に誰でも行けるので、いつも混雑していますよね。大病院の本来の役割は外来ではなく「入院・手術・救急・重症患者」の対応です。

先生：“ええ、そうです！ 具合が悪いときはもちろん、最近受ける機会が増えてきた予防接種も「行きたいところ」に行つてみてください。

編：“あなたの行きたいところが「かかりつけ医」という意味がよくわかりました！ 「行きたい、通り続けたい」と思える安心感が大切ですね。

先生：“もちろんです！ 街のレストランや美容室みたいに気に入るとこに出会うまで病院は変えていいと思いますよ。まずは一回行ってみて、合わなければやめればいいんです。選択の自由は皆さんにあります。



- 通いやすいところ。
- 自分にとっての相性のよさは大切。
- 幅広くなんでも総合的に診てくれるところ。
- 基幹病院・専門医との連携がある。
- 周囲の人のクチコミや評判を参考にする。
- 「かかりつけ医」の探し方
- 健康診断や予防接種を受ける。
- 気になるクリニックや医院のホームページをチェックする。
- 医院のホームページをチェックする。

「かかりつけ医」を選ぶポイント



教えてドクター!

小児科

Q 最近よく耳にするHPVワクチンについて教えてください。34歳女性



A HPV(ヒトパピローマウイルス)は子宮頸がんの原因となるウイルスです。ありふれたウイルスで多くの方が一生のうちに一度は感染しますが、感染してもほぼ無症状です。しかし、慢性感染に移行すると15~20年かけて子宮頸がんの発症につながります。HPVワクチンはHPV感染を防ぐことで、子宮頸がん発症を減らす効果があると言われています。2022年4月から接種の推奨が再開され、対象者は小学校6年生~高校1年生の女性です。対象者には4月以降順次、自治体から情報提供がある予定です。

ここが
ポイント! HPVワクチンは子宮頸がんの発症を減らす効果があると言われ、今年4月から接種の推奨が再開されます。

次回の教えてドクターは

皮膚科の梅森先生、松井先生・内科の倉科先生

先生への質問はP3の読者プレゼントの
「ご意見・ご要望欄」からお寄せください。

※取材協力(エールホームクリニック) 0258-86-8722

皮膚科

Q 带状疱疹を予防することはできますか?



A 带状疱疹は、水痘・帯状疱疹ウイルスにより生じます。皮膚に痛みを伴う赤みと水ぶくれができます。患者さんは50歳以上の方が多い、年齢とともに増える傾向にあります。帯状疱疹で最も問題になるのは痛みです。一部の患者さんでは、帯状疱疹後神経痛といって数カ月以上にわたり痛みが続き、生活の質を低下させることもあります。自費診療となります、50歳以上の方を対象に、発症を予防するワクチン接種を行することができます。ワクチンは2種類あり、価格や接種回数が異なり、効果にはやや違いが見られます。気になる方は医療機関へご相談ください。

ここが
ポイント! 50歳以上を対象に発症予防のワクチン接種も可能です。

私たちがお答えします!

